

脳神経外科

医 長： 吉田 秀行 スタッフ数： 3名 （常勤医師 1名、非常勤医師 2名）

「概要と特徴」

脳神経外科は、脳・神経系に対する手術のみならず、種々の脳神経疾患に対する保存的治療やリハビリ、MRI・CTなどの画像診断など、さまざまな診療活動を行っています。なかでも、顕微鏡を用いた微細な手術、低侵襲な内視鏡手術、あるいはカテーテルを用いた血管内手術など、興味に応じてさまざまな手術に取り組める、やりがいのある診療科です。

当院の脳神経外科は、現在のところ(2020年5月現在)常勤の指導医は1名です。指導医が少ないと思われるかもしれませんが、複数の初期研修医が同時に脳神経外科で研修することは殆どありませんので、マンツーマンでの指導が可能です。スタッフが少ないため、初期研修医でも戦力のひとりとして手術などの実診療に関わっていただく機会が多く、充実した研修が行えます。

「初期研修の基本的方針」

3年目以降に脳神経外科以外の診療科に進む予定の方々にとっても、内科当直では脳卒中の、外科当直では頭部外傷の診療に携わる機会が多いため、脳神経外科での研修は必ず将来的にも役に立ちます。

当脳神経外科における初期研修においては、救急の場面などで症例の初療にあたった際に対処できるようになることを目標とします。そのうえで、基本的な外科的手技を習得できるようにします。

「研修予定表」

行 事	曜 日	時 間
症例カンファレンス	月～金	8:30～9:00
手術	木	9:00～
救急患者対応	随時	
脳神経内科合同勉強会	火	8:00～8:30
脳血管撮影(カテーテル検査)	随時	

「指導体制」

常勤の指導医は1名であり、基本的にはマンツーマンでの指導を行いますが、月・木・金は岡山大学病院から非常勤医が来院するため、非常勤医から指導を受けることも可能です。(月曜日は小児脳神経外科を専門とする医師が来院するため、比較的稀な小児の奇形なども学ぶことができます。)

「経験可能な症例や手技」

出血性脳卒中（脳出血・クモ膜下出血）
頭部外傷（脳挫傷・急性硬膜下血腫・急性硬膜外血腫など）
脳腫瘍（転移性脳腫瘍・髄膜腫・グリオーマなど）
小児脳神経外科疾患（二分脊椎・先天性水頭症など）

主に上記疾患群に対する検査・初期診断・治療方針の決定・手術について経験できます。

手技としては、カテーテル検査においては動脈穿刺や簡単なカテーテル操作、手術においては、簡単な切開や穿頭、止血操作、縫合などを経験します。開頭や顕微鏡手術・内視鏡手術では、助手として手術に加わります。

「後期研修について」

医師免許取得後3年目から、専門領域に特化した研修に入るのが後期研修です。脳神経外科専門医になるためには、少なくとも4年間の後期研修を要し、この期間は全国の大学病院などが行っている『研修プログラム』に所属する必要があります。当院は、岡山大学の研修プログラムの関連施設となっています。一般的には、後期研修の1年目は当院で研修し、2年目以降は岡山大学病院ないし、岡山大学病院の研修プログラムに所属する他の病院にて研修を行うこととなります。

当院で後期研修を行う1年間で、外来や救急での患者診察、開頭・閉頭などの手術手技やカテーテルを用いた脳血管撮影などの検査手技が安全・確実にできるようになることを目指します。また、開頭による頭蓋内血腫除去術や内視鏡下脳内血腫除去術なども、術者として経験することが可能です。

将来、脳神経外科専門医になりたいと思っている研修医、あるいは、脳神経外科も候補の一つとして考えている研修医の方々には、初期研修の2年間を終えたあとの後期研修について個別にご案内をしますのでお気軽にお問い合わせください。

「研修責任者よりひとこと」

これまで、脳神経外科での1-2ヶ月の研修を多くの初期研修医が選択してくれましたが、当方の元で研修した方々は、みなさんが『良かった』、『楽しかった』、『勉強になった』とってくれています。おそらく、スタッフが少ない分、研修医と指導医との距離が近くて指導を受けやすいこと、手術に入っても第3助手や第4助手ではなく第1助手として参加型・実践型の研修ができ実技が身に付きやすいことなどが好評なのだと思います。脳神経外科医になりたい人にも、そうでない人にとっても、当科での研修はきっと将来役に立つと思いますので、ぜひ1ヵ月だけでも選択してみてください。

研修希望時の連絡先：岡山医療センター脳神経外科 吉田秀行 までお気軽にお問い合わせください。